

3学期にすること

年度末にしておきたいことがあります。

1年間様々なことに取り組み、その結果、貴重な示唆、視点、ヒントが得られているかと思えます。さて、それを如何に今後につなげるか・・・。

今、学校現場では、コンピュータで情報を作成、保管が行われているかと思えます。

新規事業、また今年度の取り組みを提案するときにコンピュータで書類をつくり提案します。

昨年、実施にあたって変更したことや細かな調整したことがあったにもかかわらず、それが全く生かされていないことがあります。要は、その貴重な財産が電子データに反映していないのです。

従来、紙媒体が主流だったときは、赤ペンが入り、それしかなかったので、次年度の起案時には赤ペンが生きてきます。しかし、よほど「まめな」人がいないと実施後の財産が電子データ上に反映しない。従って、例年通り全く原型が切り返しくり返し起案されることになる。コンピュータという素晴らしい機器が時代に逆行するようなことが日常的に起こるリスクがある。(こんなことありませんか?)

もちろん、紙媒体の記録があるが、次年度の起案時には、忙しさもあり、電子データをそのまま使うことが起こり得る。

さて、どうすればよいだろうか。

私は、次のどちらかだと考える。

- ①時代遅れといわれるが、やはり、紙媒体の赤ペンの記録と電子データに反映する
- ②紙を全く使わずに、赤ペンも電子データ上に残す

しかし、学校現場は当然①であろう。

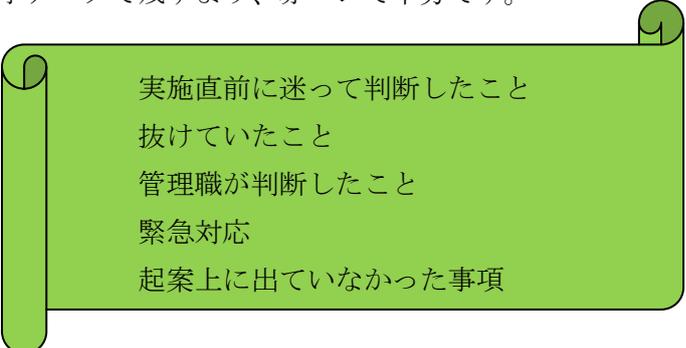
忙しいが、メモを見て、昨年何が起こっていたか精査して、電子データに反映させて起案することであろう。

今、3学期年度末とともに新年度準備です。

手帳に今年度あった貴重なメモを整理しましょう。次年度それが反映するように準備しておきましょう。

そして、自分だけの財産にしておかないで、学校の記録ファイルに赤ペンを入れておきましょう。

電子データで残すより、赤ペンで十分です。



- 実施直前に迷って判断したこと
- 抜けていたこと
- 管理職が判断したこと
- 緊急対応
- 起案上に出ていなかった事項

結論 メディアではなく、人です。次年度は、さらによい年度になりますように。